

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700244		
法人名	社会福祉法人あかね会		
事業所名	グループホームうのさと茜邸 東館		
所在地	知多郡東浦町大字緒川字雁狭間山1番地21		
自己評価作成日	令和 3年 2月14日	評価結果市町村受理日	令和 3年 8月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsyoCd=2395700244-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsyoCd=2395700244-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 3年 5月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の交流拠点としての地域交流スペースや中庭が設けられており、さらに保育所を併設することにより、ご高齢者の方と子供たちが交流できるといった相乗効果が期待できる複合施設です。ホームの窓越しから子供たちの元気な姿を見ることができ、笑い声があふれるような施設作りをめざしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度はコロナ禍への対応に追われる一年となったが、定期的な換気・消毒を徹底し、利用者が安心して暮らせるようにホームは丸丸となって利用者の生活を守るべく取り組んでいる。加えて日々の生活のメリハリを考え、レクリエーション活動にも力を入れ、楽しく過ごせるような工夫を凝らしている。  
職員は利用者への接遇にも細心の注意を払っている。業務中心ではなく「人」中心のケアを実践し、常に利用者の気持ちに寄り添い、自宅で生活しているような感覚となるように努めている。  
併設の特別養護老人ホームと共に、コロナ差別を無くす運動や、小中学生向けの福祉教育の取組みなどに参加し、地域福祉向上の一翼を担っている。時には子どもたちの見守り役も引き受けるなど、地域との関係性を大切にしたい、地域に根差したホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を掲げ、新人教育の際に説明を行い、名札に入れて常に見えるようにしている。	職員に対し、法人理念と年間計画の説明を、毎年4月に行われる全体会合にて行っている。職員はクレドカードを携帯し、常に理念に立ち返り、理念に沿った利用者支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを定期的に行い、施設内の地域交流ホールを活用して、演奏や踊りなどを行って頂いたりして交流をしていたが、コロナのために現在は行えていない。	コロナ禍において、地域との関わりは自粛を余儀なくされているが、管理者は区長と定期的に連絡を取り合い、地域との関係継続に努めている。地域ボランティアを担う法人職員が、紙芝居やピアノ演奏を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特になし。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催を行い、地域の区長、民生委員、地域包括支援センター、ご家族、入居者から話を伺い、ヒヤリハットや事故報告等、事業所の現状を報告し、頂いた意見は現場の職員と共有し、サービス向上に活かす場としているが、現在はコロナのため書面提出のみ。	コロナ禍により、現在は書面開催としている。関係者にホームの資料を事前に配布し、意見を引き出しやすくしている。汲み取った意見はホームの回答と合わせ、議事録に記載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば相談できている。 書類提出時などに関係を築くような会話を交わしている。	町の担当者とは、電話でのやり取りだけでなく直接面談も行い、コミュニケーションを図っている。不明点などはすぐに相談できる関係性の構築がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	複合する特別養護老人ホームと連動して、委員会を設置、法人指定月に勉強会を実施。また、職員同士でも出来ていなければ、お互いが注意しあい、管理者からも注意するなど、日頃から防止に努めるようにしている。	身体拘束廃止委員会を開催し、事例検討や職員のストレスチェックを行っている。職員の気持ちに余裕を持たせ、身体拘束発生要因が生じないように努めている。職員研修でも身体拘束をテーマに取り入れて、学びを深める取り組みも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待のみでなく、言葉遣い等も含めて、入居者様に対して苦痛を与えないように心掛けており、職員に対しても出来ていない事があれば、職員同士で注意をする。管理者から注意する等、日々、防止に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複合する特別養護老人ホームと連動して、勉強会を開催して、職員に対して勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は十分な説明を行い、入居者様や御家族がわかりやすいように説明を行っている。また、疑問があれば、いつでも説明、回答が出来るように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様はもちろん御家族の方からも意見を頂ける様な雰囲気づくりに努めている。ご家族様の要望等は、現場の職員も把握できるようにしている。	家族からは面会時に様々な意見や要望を聞き取っている。汲み取った意見をユニット会議で取り上げ、運営に活かすように努めている。忌憚のない意見交換で、ホームとの良好な関係継続が伺える。	家族が発信した意見は会議以外でも職員が共有し、都度的確に対応できるような仕組み作りが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含め職員同士でもコミュニケーションを常にとるようにして職員からの意見や疑問等、話し合う機会を設けており、現場にも連絡帳等を置き、職場の決定事項などを記入して、活用するようにしている。	会議の場だけでなく、日常業務の中で意見交換を行っている。職員一人ひとりのモチベーションアップにつながるように、キャリアアップ制度を活かしている。職員が積極的に業務に取り組めるような取り組みを実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接話をする機会は少ないが、職員の個々の努力や実績、勤務状況を把握している管理者が、代表者とのやりとりを行い、各自が向上心を持って働けるような職場環境を努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加に関しては、法人で参加費用を負担したり、勤務時間内で参加を促すなどの研修に参加しやすい状況作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複合施設のため、他事業所の他業種とは会議等を通じて交流を図る機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にアセスメントをとる際に話を伺い、日頃も本人に要望を伺い、出来る限りの対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にアセスメントをとる際に話を伺い、日頃も御家族に要望を伺い、出来る限りの対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントをとる段階で要望を伺い、契約時や日頃にも相談を受ける体制を取っており、サービスに関してもケアマネを通して、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送るにあたり、ご本人の残存機能を活かし、出来る事はご本人に行って頂く。また、職員は入居者様が出来ない事のお手伝いをさせて頂く関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に対して毎月写真付きのお手紙を通して日常生活の様子をお伝えすることで、ご安心いただけるような工夫をしている。それに加え、管理者よりご家族様へ電話をかけコミュニケーションをとるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の面会時には面会場所の制限等は設けず、本人様の居心地が良い場所で面会をして頂き、関係が途切れないような支援に努めていたが、コロナのため現在はできていない。	面会制限がある中でも、手紙や電話でのやり取りを継続し、馴染みの関係が途切れないように支援している。手紙作成は手のリハビリを兼ね、馴染みの関係継続と機能訓練の両立を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士や職員との相性があるので、座って頂く位置や、食事を取る位置などはある程度、施設側で考えていますが、利用者様の気持ちを尊重しつつ孤立をしないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて連絡を取れるように、体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様によって暮らし方の希望が違う為、本人やご家族様から聞き取りを行い、意向の把握に努めている。また、困難な場合はご本人の行動や言動から気持ちを読み解くようにしている。	利用者との日常の関わりの中で思いや意向を把握し、申し送りノートで共有している。思いの実現に向け、介護計画にも反映している。ホルモンを食べたいという要望に応え、七輪を使って焼いて食べてもらった事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネからの情報と共に入居者様からの昔の話等を伺い、行動を読み取りながら、生活歴や生活パターンを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様によって生活リズムが違う為、その方の生活リズムに合わせて過ごしてもらうようにしているが、体操やレクなど集団で行う事に関しては、職員から参加を促し、声掛けをすることがある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状態を考えた上でケアマネを中心に職員からの情報を収集し、また御家族からも聞き取りを行い、その意見も踏まえプランに反映させている。	家族からは面会時や電話の際に意向を確認し、職員が把握した本人の意向とモニタリング結果を踏まえ、介護計画を作成している。介護計画の説明は、コロナ禍であっても対面で行っている。	介護計画はより具体的な支援内容を記載し、モニタリングとリンクさせることが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、ケース記録を活用して記録を残している。また、申し送りノートを活用し、現場の職員、管理者共に情報の共有が出来ていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昼夜を問わずに生活全般の支援にあたる為、そのニーズも多岐にわたるが、必要性に応じ柔軟に対応し、「決めつけない介護」を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加して定期的に回覧板を回してもらい地域との繋がりを得る為に情報を把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の説明を契約時に説明させて頂き利用をしてもらっているが、なかには入居者様、御家族の意向で他の医療機関を利用する入居者もいらっしゃる。	ホーム協力医による定期往診や特変時の24時間対応を支援している。看護師配置の職員と連携し、適切な医療支援を行う体制を整えている。専門医への受診は家族対応とし、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の健康管理を行い、提携医療機関への受診の対応時の支援。介護職へのアドバイスをやっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合、情報を収集するために病院関係者に連絡を定期的に入れて情報収集をするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年9月に始めて看取りをおこなった。主治医、看護師、管理者、ケアマネ、介護職員でチームを組み、最期までご本人様、ご家族様のご意向に沿う支援をおこなうことができた。	利用者・家族にはホームの重度化指針を説明し、終末期に向けた意向の確認を行っている。状態変化があれば都度意向を確認し、主治医も含め最適な支援となるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して職員に対して説明をしている。また、併設する特別養護老人ホームの職員と定期的に勉強会を開き職員が勉強する機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設する特別養護老人ホームと併せて年4回の訓練を実施。昼間・夜間を想定して初期消火などを中心に行うようにしています。また、4回のうち1回は消防署立ち入りで行っている。	年4回の避難訓練を、法人全体で実施している。1回は消防署立ち合いの下で行い、指導・助言をもらっている。飲食料は3日分を確保し、備蓄している。災害時における対応は手順を定め、職員に周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持って接するようになっているが、言葉遣い等は入居者様の性格や状況に併せて変える事がある。また、言葉遣い等出来ていない職員に対してはその都度注意をするようになっている。	利用者の状況や生活歴に合わせ、適切な接遇となるように努めている。排泄・入浴の際には羞恥心への配慮もしている。不適切ケアとならないように職員同士が常に注意し合える環境と関係性を整えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをし、ご本人に確認を取ってからケアを行うようになっている。お話が難しいご入居者様の方に対しては、メモ用紙を活用したりジェスチャー等で相手の気持ちを確認するようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の時間の流れ(食事の提供時間・入浴時間等)は決まっているが、その中でくつろいで過ごせるように入居者様のペースに併せて対応できるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを選んで頂く際等、入居者様と一緒に出来ることは行うようになっている。また、顔周りや口腔ケア等も職員が気にして行えてないようであれば、声掛け等して行ってもらえるようになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で行う給食会議で入居者様や職員の意見を反映するようになっている。また、食事提供時、提供後など準備や後片付け等を入居者様と一緒に出来る事は行うようになっている。	とろみ食やアレルギー対応食など、利用者の状態に合わせた食事支援を行っている。季節行事には特別メニューを提供し、メリハリを付けている。利用者は食器拭きなど、できることを共にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する特別養護老人ホームの栄養士と連携を行い、食材の調整、食事量の調整等を行っている。また、水分制限のある入居者様には現場でチェック表を作成して支援を行うようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の声掛けや付き添いによって、ご自身で口腔ケアを行って頂いている。また、義歯調整等はご家族様に依頼をして、いままでのかかりつけの歯科医に診ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェックや誘導を行っている。入居者様の把握パターンに併せて柔軟に対応をしています。	トイレでの排泄支援を基本としている。利用者一人ひとりの状態・ペースに応じた支援に努め、特に羞恥心への配慮は徹底している。夜間は安眠妨害とならないように、適切に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便チェックの確認を必ず行い、状況に応じて、医師や看護師に相談を行いアドバイスももらって対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のある方には曜日・時間にこだわらず、場合によっては声掛けする職員を替える、または清拭等に対応するなど、状況に応じて柔軟に対応している。	週2回以上の入浴を支援している。要望があれば毎日でも対応可能である。「当日の入浴者」と張り出しがあり、利用者が入浴日を確認することができる。銭湯に入る気分を味わえるような、富嶽の絵画を飾る計らいもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のリズムに併せた対応をしている。夕食後すぐに部屋に戻ってテレビを見ている方、フロアでテレビを見ながら遅くまで起きてる方など、ご入居者様が寝る体制になるまで職員が見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないよう確認を徹底している。また、服薬介助の際に症状の変化の確認を怠らないように気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴を把握し、それぞれの方に役割を持っていただけるような支援を常に心がけている。職員と一緒にいたり、入居者様の要望に応えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの影響で外出できていないが、施設内の中庭を職員と一緒に散歩したりして気分転換を図っている。	コロナ禍により、外出は自粛としている。敷地内を活用し、中庭での散歩や自動販売機への買い物等で、外気浴の機会を設けている。悪天候の日には建物内で運動を行い、気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様によって異なるが、ご家族様から要望があった場合のみ、少額の金額を本人管理で所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会ができないので、電話や手紙でやり取りができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に行事を行い、その様子を記録した写真や入居者様と一緒に作成した作品や飾り物を共有部分やユニットの玄関部分に飾って、季節感を楽しんで居心地良い空間をつくるように工夫をしている。	今年度はコロナ禍により、ホーム内の視察を中止とした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に置いてあるソファや共有スペースの畳部分等、施設の中を自由に行き来出来、思い思いの場所で過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでいただき、安心して快適に過ごしていただけるような空間にしている。	今年度はコロナ禍により、利用者居室の視察を中止とした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどわかりやすいようにマークを付けて表示をしたり、居室もわかりやすいように各居室ごとに飾り付けをするなどして工夫をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700251		
法人名	社会福祉法人あかね会		
事業所名	グループホームうのさと茜邸 西館		
所在地	知多郡東浦町大字緒川字雁狭間山1番地21		
自己評価作成日	令和 3年 2月14日	評価結果市町村受理日	令和 3年 8月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2395700244-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2395700244-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 3年 5月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の交流拠点としての地域交流スペースや中庭が設けられており、さらに保育所を併設することにより、ご高齢者の方と子供たちが交流できるといった相乗効果が期待できる複合施設です。ホームの窓越しから子供たちの元気な姿を見ることができ、笑い声があふれるような施設作りをめざしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を掲げ、新人教育の際に説明を行い、名札に入れて常に見えるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れを定期的に行い、施設内の地域交流ホールを活用して、演奏や踊りなどを行って頂いたりして交流をしていたが、コロナのために現在は行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特になし。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催を行い、地域の区長、民生委員、地域包括支援センター、ご家族、入居者から話を伺い、ヒヤリハットや事故報告等、事業所の現状を報告し、頂いた意見は現場の職員と共有し、サービス向上に活かす場としているが、現在はコロナのため書面提出のみ。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば相談できている。 書類提出時などに関係を築くような会話を交わしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	複合する特別養護老人ホームと連動して、委員会を設置、法人指定月に勉強会を実施。また、職員同士でも出来ていなければ、お互いが注意しあい、管理者からも注意するなど、日頃から防止に努めるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待のみでなく、言葉遣い等も含めて、入居者様に対して苦痛を与えないように心掛けており、職員に対しても出来ていない事があれば、職員同士で注意をする。管理者から注意する等、日々、防止に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複合する特別養護老人ホームと連動して、勉強会を開催して、職員に対して勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は十分な説明を行い、入居者様や御家族がわかりやすいように説明を行っている。また、疑問があれば、いつでも説明、回答が出来るように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様はもちろん御家族の方からも意見を頂ける様な雰囲気づくりに努めている。ご家族様の要望等は、現場の職員も把握できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含め職員同士でもコミュニケーションを常にとるようにして職員からの意見や疑問等、話し合う機会を設けており、現場にも連絡帳等を置き、職場の決定事項などを記入して、活用するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接話をする機会は少ないが、職員の個々の努力や実績、勤務状況を把握している管理者が、代表者とのやりとりを行い、各自が向上心を持って働けるような職場環境を努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加に関しては、法人で参加費用を負担したり、勤務時間内で参加を促すなどの研修に参加をしやすい状況作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複合施設のため、他事業所の他業種とは会議等を通じて交流を図る機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にアセスメントをとる際に話を伺い、日頃も本人に要望を伺い、出来る限りの対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にアセスメントをとる際に話を伺い、日頃も御家族に要望を伺い、出来る限りの対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントをとる段階で要望を伺い、契約時や日頃にも相談を受ける体制を取っており、サービスに関してもケアマネを通して、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送るにあたり、ご本人の残存機能を活かし、出来る事はご本人に行って頂く。また、職員は入居者様が出来ない事のお手伝いをさせて頂く関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に対して毎月写真付きのお手紙を通して日常生活の様子をお伝えすることで、ご安心いただけるような工夫をしている。それに加え、管理者よりご家族様へ電話をかけコミュニケーションをとるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の面会時には面会場所の制限等は設けず、本人様の居心地が良い場所で面会をして頂き、関係が途切れないような支援に努めていたが、コロナのため現在はできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士や職員との相性があるので、座って頂く位置や、食事を取る位置などはある程度、施設側で考えていますが、利用者様の気持ちを尊重しつつ孤立をしないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて連絡を取れるように、体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様によって暮らし方の希望が違う為、本人やご家族様から聞き取りを行い、意向の把握に努めている。また、困難な場合はご本人の行動や言動から気持ちを読み解くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネからの情報と共に入居者様からの昔の話等を伺い、行動を読み取りながら、生活歴や生活パターンを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様によって生活リズムが違う為、その方の生活リズムに合わせて過ごしてもらうようにしているが、体操やレクなど集団で行う事に関しては、職員から参加を促し、声掛けをすることがある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状態を考えた上でケアマネを中心に職員からの情報を収集し、また御家族からも聞き取りを行い、その意見も踏まえプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、ケース記録を活用して記録を残している。また、申し送りノートを活用し、現場の職員、管理者共に情報の共有が出来ていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昼夜を問わずに生活全般の支援にあたる為、そのニーズも多岐にわたるが、必要性に応じ柔軟に対応し、「決めつけない介護」を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加して定期的に回覧板を回してもらい地域との繋がりを得る為に情報を把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の説明を契約時に説明させて頂き利用してもらっているが、なかには入居者様、御家族の意向で他の医療機関を利用する入居者もいらっしゃる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の健康管理を行い、提携医療機関への受診の対応時の支援。介護職へのアドバイスをを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合、情報を収集するために病院関係者に連絡を定期的に入れて情報収集をするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年9月に始めて看取りをおこなった。 主治医、看護師、管理者、ケアマネ、介護職員でチームを組み、最期までご本人様、ご家族様のご意向に沿う支援をおこなうことができた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して職員に対して説明をしている。また、併設する特別養護老人ホームの職員と定期的に勉強会を開き職員が勉強する機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設する特別養護老人ホームと併せて年4回の訓練を実施。昼間・夜間を想定して初期消火などを中心に行うようにしています。また、4回のうち1回は消防署立ち入りで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持って接するようにしているが、言葉遣い等は入居者様の性格や状況に併せて変える事がある。また、言葉遣い等出来ていない職員に対してはその都度注意をするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをし、ご本人に確認を取ってからケアを行うようにしている。お話が難しいご入居者様の方に対しては、メモ用紙を活用したりジェスチャー等で相手の気持ちを確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の時間の流れ(食事の提供時間・入浴時間等)は決まっているが、その中でくつろいで過ごせるように入居者様のペースに併せて対応できるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを選んで頂く際等、入居者様と一緒に出来ることは行うようにしている。また、顔周りや口腔ケア等も職員が気にして行えてないようであれば、声掛け等して行ってもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で行う給食会議で入居者様や職員の意見を反映するようにしている。また、食事提供時、提供後など準備や後片付け等を入居者様と一緒に出来る事は行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する特別養護老人ホームの栄養士と連携を行い、食材の調整、食事量の調整等を行っている。また、水分制限のある入居者様には現場でチェック表を作成して支援を行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の声掛けや付き添いによって、ご自身で口腔ケアを行って頂いている。また、義歯調整等はご家族様に依頼をして、いままでのかかりつけの歯科医に診ていただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェックや誘導を行っている。入居者様の把握パターンに併せて柔軟に対応をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便チェックの確認を必ず行い、状況に応じて、医師や看護師に相談を行いアドバイスももらって対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のある方には曜日・時間にこだわらず、場合によっては声掛けする職員を替える、または清拭等で対応するなど、状況に応じて柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のリズムに併せた対応をしている。夕食後すぐに部屋に戻ってテレビを見ている方、フロアでテレビを見ながら遅くまで起きてる方など、ご入居者様が寝る体制になるまで職員が見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないよう確認を徹底している。また、服薬介助の際に症状の変化の確認を怠らないように気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴を把握し、それぞれの方に役割を持っていただけるような支援を常に心がけている。職員と一緒にいたり、入居者様の要望に応えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの影響で外出できていないが、施設内の中庭を職員と一緒に散歩したりして気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様によって異なるが、ご家族様から要望があった場合のみ、少額の金額を本人管理で所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会ができないので、電話や手紙でやり取りができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に行事を行い、その様子を記録した写真や入居者様と一緒に作成した作品や飾り物を共有部分やユニットの玄関部分に飾って、季節感を楽しんで居心地良い空間をつくるように工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に置いてあるソファや共有スペースの畳部分等、施設の中を自由に行き来出来、思い思いの場所で過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでいただき、安心して快適に過ごしていただけるような空間にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどわかりやすいようにマークを付けて表示をしたり、居室もわかりやすいように各居室ごとに飾り付けをするなどして工夫をしている。		